

[12番 野村勝憲 登壇]

○12番（野村勝憲）

それでは通告に従い質問します。私は4月、5月にデータセンター、ふるさと納税、大学と企業立地、まちづくりとSDGsをテーマに、国会議員会館、経済産業省、総務省、文部科学省、印西市ほか7自治体と2商工、3観光協会、私立大学10校を視察訪問と、東京で開催された日本自治創造学会研究大会「個性と魅力ある自治体づくりに挑戦する」に出席し、得た知見などを参考に、提案を含め大きく3点質問します。

1点目、消滅可能性自治体から飛騨市が脱却するには。4月、民間の人口戦略会議では、飛騨市は消滅の可能性があると再び指摘され、10年前、日本創成会議が発表したときと変わっていません。県内では、神戸町や富加町、それから多治見市もそうですけども、消滅可能性自治体から脱し、高山市や白川村は10年前と同じで消滅可能性自治体の中に入っています。飛騨市も一刻も早く高山市や白川村並みに消滅可能性から脱し、若者の市外流出を小さくしなければなりません。今、市の最重要課題である人口減少と少子化・高齢化に危機感を持って向き合う対策が必要。市民から強く求められているのが地域経済活性化です。そこで2点問います。

飛騨市の新たな地域活性化策について。5月に白川村は十六銀行のグループ会社「カンダまちおこし株式会社」と地域活性化に向けた協定を結び、調達資金を企業誘致に充て、雇用創出を図ると発表。また、熊本県菊陽町は台湾から世界最大手の半導体メーカーの工場を誘致し、若者を中心に入り、持続可能自治体となるなど国内の町村でも地域の特性を生かした企業や研究機関の誘致活動が積極的で、人口減少問題など地域課題解決に危機感を持って対応されています。私は市長肝煎りの猫事業、大学誘致、駅東開発などで持続可能な地域になるか疑問です。求められるのは、飛騨市の地域資源と特性を生かした新たな地域活性化策です。市の具体案は。

2つ目、データセンターと研究機関の立地について。DCサービスの国内市場が2023年、2兆5,200億円から2027年には4兆1,860億円まで拡大と知り、3年前に計画していたデータセンター視察に印西市、商工会、観光協会、建設現場など5月29日に訪問。印西市内にはグーグルやアマゾン、NTTなど、公表しているだけで11社のデータセンターを運営、または建設中。その現場を実際に見て、データセンター誘致が地域経済に大きく貢献し、生成AIの急速な普及でさらなる需要増が見込まれ、印西市のみならず国内各地で建設ラッシュが進むと確信しました。なぜデータセンターが印西市なのかの優位性は、災害体制で水害のリスクが低く、周辺には活断層が見つかっていない地盤、さらに大量の電力が貰える電力インフラが整備され、その地域特性を生かし、12年前に初当選された板倉市長は地域・経済の活性化を最優先にデータセンター誘致に取り組まれた結果、国内外の企業が運営するデータセンターの一大拠点となり、驚くことに2021年度には固定資産税など、市の税収が約220億円、10年前に比べて約60億円も増え、その財源をもとに公園や保育園の整備を進め、子育て世代の転入が増え、現在、人口は20年前の飛騨市と同じ約3万人も増え11万人です。データセンターの立地が印西市のまちづくりに結びつき、全国で持続可能性のある65の自治体の中に入り、しっかりと雇用環境なども整ってきたことが立証されました。翌日、石破茂事務所や2年ぶりに経済産業省情報産業課に出向き、データセンター立地について意見交換。米国のアマゾンは今年1月、2023年から2027年の運用や修繕費を含む日本への投資額

が約2.3兆円になると発表。また、グーグルの関係会社も関東だけではなく広島県や和歌山県でDC向けと見られる用地の取得を進め、また、北海道庁と苫小牧市がソフトバンクの進出に積極的など新たな動きが出てきており、経済産業省のデータセンター地方拠点整備候補地として調査費がついた旭川市から美祢市までの10自治体も計画地は全て地上です。そのうち長岡市、伊賀市、恵那市に私は訪問し、情報を収集しています。もし神岡町の地底危機管理データセンター新設事業に取り組めば、国内外からのDC進出が期待される大きな最後のチャンスです。今回の視察などで、市の地域資源と特性を生かし新たな地域活性化策は、まずデータセンターの立地から。データセンターが立地されれば、関係人口を含め企業人との交流が生まれ、新しい視点での研究機関や企業誘致にもつながり、10年後のまちづくりに結びつくと思われます。市の考えはいかがですか。以上です。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔企画部長 森田雄一郎 登壇〕

□企画部長（森田雄一郎）

私からは、1点目の新たな地域活性化策についてお答えいたします。市では、現在、市が実施している施策のほとんどは地域活性化につながることを目的としたものであると考えております。例を挙げれば、市と地域外の人との関わりを生み出す飛騨市ファンクラブや、地域の困りごとや課題を資源として人ととのつながりや支え合いを構築する「ヒダスケ！」があります。これらは関係人口を創出・拡大するための取り組みですが、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面する中でも関係人口と呼ばれる地域外の人材が担い手となって地域づくりを実現していることからも、地域の活性化に寄与しているものと言えます。また、市内外の多くの方々に携わっていただき、継続的に実施されている薬草や広葉樹に関する取り組みにつきましても、その活動の中で新たな商品開発や活動拠点の創出をはじめ、全国規模のイベント開催実績があるなど、まさに地域活性化の好事例であると言えます。これらはいずれも全国各地の自治体や議会の視察を多く受け入れていることに見られるように、広くご注目をいただいていることからも、これら既存の取り組みを今後も着実に継続実施し、拡充させていくことが重要と考えております。

このほか、商工観光、農林関連の事業、振興事務所所管の事業をはじめ多くの地域活性化の取り組みがあり、これらは当初予算や補正予算の提案の際をはじめ、日頃から説明しているもので、これらも含めて具体策と捉えていただければと思っております。

なお、議員からは保護猫活動、私立大学設置、駅東開発が市の肝煎り事業であるとのご発言がございましたが、これまでにも再三申し上げてきたとおり、これらは全て民間の事業であり、市が自ら力を入れている事業ではありませんのでお間違えのないようお願いをいたします。

〔企画部長 森田雄一郎 着席〕

◎議長（井端浩二）

続いて答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

□商工観光部長（畠上あづさ）

私は2点目のデータセンターと研究機関の誘致についてお答えいたします。今回のご質問に関しましては、令和4年第2回飛騨市議会定例会の一般質問でも答弁をさせていただいておりますが、改めてお答えいたします。

議員ご指摘の神岡鉱業の地下空間を利用したデータセンターの整備については、一昨年の年明け頃に、データセンターを運営しておられる情報系企業から具体的に検討したい意向をお持ちである旨の情報を入手し、具体的な誘致活動を行ったということがありました。会長や社長などトップの方々も実際に現場に来られ、また、神岡鉱業とも密接に連携しながら相当前向きに具体的な条件の検討、すり合わせを行っていただきましたが、課題が多く、残念ながら結果的に断念ということになりました。神岡鉱業の地下空間の特性といたしましては、硬い岩盤に囲まれているため安定性があり、セキュリティーレベルも高いとされております。しかし、この一連の過程を通じ、地下空間のみならず飛騨市自体のデータセンター誘致のハードルの高さを実感したところです。

具体的に申し上げますと、1つ目はネットワーク環境において、高速大容量通信を可能とする大容量光ファイバー網が必須となります。飛騨市エリア近傍は未整備であることです。例えば、今後、政府主導で日本海側に海底光インフラが敷設され、富山市内にアクセスポイントができ、かつ当該ポイントに接続できるというようなことが実現すれば高速大容量通信が可能となると思われますが、現時点においては具体的な計画があるわけではなく、現実的にはかなり難しいと考えられます。

2つ目に設置可能なスペースが狭いことです。設置環境として、データセンター本体であるサーバーラックに加え、停電時に備えた蓄電設備や非常用電源等の付帯設備の設置可能スペースが必要です。しかし、既存坑道の多くは高さが低く、横幅も狭く、これらを設置できるだけの十分なスペースがありません。このため、現在の坑道を活用することができず、新たな坑道を掘削することが必要になり、コストが見合わなくなります。また、坑内は一般的なサーバや電気設備の湿度上限80%から85%を超える高い湿度があるため、結露リスクが高く、高湿度や結露防止の対策が不可欠であり、通常の環境よりも対策コストがかさむという状況にあります。

3つ目に監視体制の整備において、万一の有人対応作業が求められる異常発生時に対応した坑内アクセスと体制の整備が難しいことです。近年は遠隔無人監視や自動管理の技術が進歩し、サーバやユーティリティ設備に遠隔監視制御技術を適用すれば日常の点検管理は可能となります。データセンターの性格上、止まることがないという信頼性が求められるため、万が一の場合にすぐに担当の技術者が駆けつけられることが必要です。しかし、飛騨市の特性上、都市部からの短時間での到着が難しいことに加え、坑道内となるとさらにその体制整備が難しくなります。専任の技術者を多く置いた場合には、その対応コストに見合う採算性の確保が課題となります。

このように、現時点においては飛騨市という場所がデータセンターを設置できる要件を欠いている状況にあり、その誘致は決して容易にできるものではないと認識しております。

一方で、昨年3月に神岡町船津地内の空き家を活用し、飛騨市出身の宛木宏之さんが社長を務められる東京都の株式会社松浦製作所がデータセンターを設置され、現在稼働しております。おおむね300社から400社のデータ管理が可能で、既に人材確保や外国人向けのアプリケーションな

どを開発する企業が利用されると伺っております。飛騨市の地域特性を考えた場合には、こうしたデータセンターを拡大していくことも必要ではないかと考えております。

〔商工観光部長 畠上あづさ 着席〕

○12番（野村勝憲）

畠上部長は、たしか2年か3年前、高山市含めこの飛騨エリアは企業立地には向いてないという話をされたと思いますけども、実際、今テレビショッピングなどで有名になっていますけども、あもう酵素を作っているのは莊川の研究所ですよね。あのグループの本社はたしか名古屋市にあると思いますけど、要するに寒暖差を利用して地域資源を生かしてやっている。あれは結構人気なんです。ああいうものが立地できているわけですよ。だから私は前々から言っていますけども、この地域の空気、水がいい、あるいは寒暖差もある。そういうものを研究機関をも含め企業立地はできないかということは再三申し上げてきましたけど、あなたが言っていることはちょっと矛盾していませんか。

○議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畠上あづさ）

あもう酵素のことは私も存じ上げておりますが、推測いたしますに、あもう酵素はそれこそ今議員がおっしゃられたように水とか気候的なところの莊川での優位性を考えてあそこに工場を造っておられると思います。ただ、一般的に考えまして、ある程度の規模の企業を誘致するには交通網の整備であるとか、そういったところは欠かせない条件でありますので、そういったところで飛騨市が必ずしも有利な条件にはないということは矛盾してないと考えております。

○12番（野村勝憲）

私はいろいろなところを歩いてきています。現実に山梨県でも、あるいは宮城県の5,000人か6,000人の村でも企業誘致で成功しているんですよ。私前も言ったと思うんですけど、いろいろなところを研究して、分析して、この地にこういうものがあるんだなということを研究していくば必ず立地できると思います。

ところで、私が一番気にしてるのは、これ三度目になると思うんですが再び消滅可能性自治体が発表されております。飛騨市の人口は恐らく10年後は約1万7,000人前後になると思います。そうしますと、当然過疎の問題、限界集落、あるいは担い手不足がそれぞれの地域で起きてくると思います。そういったことが予測できるわけです。それを前提に都竹市長にお伺いしますけども、要するに持続可能なまちづくりを実現するということで今年のスローガンにされていますけども、私は福祉だけでは駄目だと思うんです。経済と福祉は車の両輪で市政を運営していかなければいけない。それを前提に10年後の飛騨市のあるべき姿、それと何を核にして持続可能なまちづくりを取り組まれる予定ですか。

○議長（井端浩二）

答弁を求めます。

△市長（都竹淳也）

10年後じゃなくても既にそうなっているんです。なので、今やっていることがまさしく議員がおっしゃるような持続可能なまちづくりに向けた取り組みということあります。ですから、

関係人口もそうですけれども、先ほどの部長から地域資源の活用の話もありましたし、そうしたことの中核に据えながら、いかに少ない人間でいろいろな仕組みを効率化してやっていくか。これを総合的にやっていくということを今まさしくやっているわけであります。これも部長の答弁がありましたように今やっていることがまさしくその対策ですから、10年後に起こるわけではなくて、飛騨市の場合は人口減少先進地なので既にそうなっているということあります。

○12番（野村勝憲）

でも、10年後の飛騨市はこうあるべきという姿、グランドデザインは描かれていないんですか。

△市長（都竹淳也）

ずっとこれも申し上げているように、みんなが心豊かに楽しく暮らせるまち、こうした1つのスローガンを掲げられ、まさしくウェルビーイングです。そこを追求していくというのが10年後のるべき姿です。それは人が少なくなつても何とかやっていける地域で、人が少なくなつてゐるということは働き手もいないわけですし、様々な社会機能を維持するのも難しい。それを何とかいろいろな助け合いの仕組みとか外部の力を借りたりしながらやっていく。これが10年後のるべき姿だというふうに思います。

○12番（野村勝憲）

私は印西市の市長の話をしました。12年前にあそこはクリーンセンターの移転の問題で大きな問題があったということを聞いています。実際現地に行って聞いているんです。それでも経済を活性化しなければいけないということでデータセンターを誘致されたわけです。私はそういう具体的な政策を持って次のステップに行かなければ、飛騨市は消滅可能性自治体から脱皮できないと思います。

それでは2点目の「賑わい」と「稼ぐ観光」について。市長は1期目に観光を1丁目1番地、外から人と金を取り込む、元気な飛騨市づくりの推進と発表して8年が経過。しかし、目立つのはそのときの言葉やパフォーマンスだけで成果は出でていません。申すまでもなく首長は政治家。先に紹介した印西市のように地域経営者としていい結果が求められます。古川町の駅前通りや中心街にはかつてのにぎわいはなく、閉店が続き宿泊客も減り続け、最近割烹旅館が閉館するなど観光面に影響がでています。そうした中、昨年9月から3月までNHK連続テレビ小説さくらの再放送の影響により古川の町中ににぎわいが少し出てきており、三嶋和ろうそくの店頭のノートには東北から九州までの観光客から「さくらを見て訪れました。」のメッセージが昨年から寄せられ、今年になってさらに多くの声が。また、最近も連日寄せ書きが届いているようです。NHKさくらの再放送は新日本紀行の再々放送とともに観光面にいい影響が出ている今こそ、町中ににぎわいを取り戻し、稼ぐ観光地として売り出すための新たな観光振興が求められ、3点問います。

1つ目、飛騨古川まつり会館の現状と見通し。飛騨古川まつり会館は平成4年にオープンし、古川町時代の平成15年までは入館者は年間平均約8万人を超え、合併して市になってからの平均は年間約2万6,600人。しかし、都竹市長が観光を1丁目1番地にと、人と金を取り込む事業として、市長自らたびたび登場し市長のPR館とも言われ、好評だった3Dから4K映像にした制作費4,500万円など約2億円の改修費を投入した令和2年から令和5年までの入館者数は、年平均約1万2,530人の最悪で、赤字運営が続いている現状と今後の見通しを問います。

2つ目、多額の制作費と市が負担した「雑魚どもよ、大志を抱け！」について。アニメ「君の名は。」は相変わらず人気で、図書館のノートには多くのメッセージが寄せられ、NHK連続テレビ小説「さくら」、新日本紀行と同様に市から政策協力金など一切出ていません。昨年3月から東映系の映画館での上映の「雑魚どもよ、大志を抱け！」を見て、飛騨市にやってこられた観光客の声を聞いたことがありません。市はこの映画にロケツーリズムの一環として約2,545万円もの大金を投入。しかし、観光面など地域にプラスになっておらず、白川村や高山市ではロケツーリズムも含めPR活動にこんな多額な費用負担などしていません。費用対効果が出る観光戦略に変えるべきと思いますが、いかがですか。

3つ目、町並み景観や地域資源を生かしさらなる誘客へ。本光寺近くのやんちや屋台村で夜営業している店は1軒だけ。近くの瀬戸川沿いのお土産屋も閉店。また、電柱がなくなつた殿町や壱之町の街並み景観を散策するのに情緒を醸し出してくれた人力車が昨年暮れから見られなくなり、残念の声を多く聞きます。この人はふるさとの北九州に帰られて、現在、人力車で同じようなことをやっていらっしゃるようです。こう言つたら失礼ですけど、聞いたところによるところよりもはるかに稼ぎがいいようです。新たな観光客やにぎわいづくりの面からもマイナスで、市の見解と新たな対応策は。無電柱化が進む古川町の町並みを散策する観光客や住民は昭和の時代に戻った気分。あの懐かしい昭和の体験ができる展示物などを設置したコーナーを空き家を利用して、数か所あれば新たなにぎわいが期待できるのではないでしょうか。これはお金はかかりません。ロケツーリズムの比よりはるかに安いですから。また最近の外国人は、古物や山並み鑑賞などに費やすようで、国内外からさらなる観光誘客増のためにもここにしかない地域支援を生かさなければなりません。市の具体案は。以上です。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

□商工観光部長（畠上あづさ）

それではまず1点目の飛騨古川まつり会館の現状と見通しについてお答えいたします。飛騨古川まつり会館の令和5年度の入館者数は1万7,634人で、対前年比112%となったものの、コロナ禍前の平成30年度と比較いたしますと84%ととなっております。このことから、観光需要は引き続き回復傾向と考えられるものの、コロナ禍の影響が残り、バスによる団体旅行の減少などが影響しているものと考えております。飛騨古川まつり会館の損益分岐点は、精査の結果年1万8,000人となっており、令和5年度の入館者数はこれには及ばなかったものの平成30年からの累積収支はマイナス33万3,000円まで回復し、赤字解消のめどがついたと考えております。令和4年度の6月及び3月議会での答弁と重複いたしますが、今後は引き続き古い町並みを訪れる観光客の皆さんに、1人でも多く飛騨古川まつり会館にもお立ち寄りいただくため、飛騨古川まつり会館の入館が町歩きの導入となるような見せ方での情報発信や、入館割引券の効果的配布、周遊観光バス補助を実施するほか、館内空きスペースでの古川祭史編集委員会と連携しての企画展の開催、4Kシアターを活用した映画上映等にも取り組んでまいります。なお、4K映像の導入をはじめとするリニューアルにつきましては来館者の皆さんにも大変好評であり、議員ご指摘の令和2年度以降の入館者数の減少はコロナ禍の影響が要因であると考えておりますので申し添えさせていただ

きます。

次に、2点目の「雑魚どもよ、大志を抱け！」についてお答えいたします。本件につきましては、令和5年9月議会にてご答弁申し上げておりますが、念のため繰り返しご答弁申し上げます。まず当作品でご活用いただいたふるさと納税活用映像制作助成金は、市がふるさと納税にメニューとして枠を設け、制作者自らが汗をかいて集めていただいた寄附を原資に事業を行っていただくものであり、市の制作協力金ではありません。また、財源には全て寄附金を充てるため、市の一般財源としても税金も投入しておりません。寄附する企業側には税制上の損金算入や税額控除とともに、優れた映像作品の制作に協力できるという社会貢献ができるというメリットがあり、制作者にとっては資金を集めやすく、市にとっては税金を使うことなく目的の実現に資することができるという三方よしの制度であり、積極的な活用を図っております。また、この取り組みはそもそも観光誘客を目的としたものではありません。優れた映像作品に飛騨市の風景が用いられることや、ロケに市民がエキストラなどで参加することにより市民のシビックプライドが醸成され、ひいては地域の活性化につながることを目指しているものであり、市が参加しております全国のロケツーリズム協議会の場においても常にそうした考え方を述べております。

次に、3点目の町並み景観や地域資源を生かした誘客についてお答えいたします。飛騨古川の町並みの価値は、その景観はもとより、その地に暮らす住民自らがまちづくりとして、行政による厳しい規制がなくともその町並みを守り続けている点にあり、まさに議員ご指摘のここにしかない地域資源に当たるものであると考えております。しかし、このことは言い換えれば古川町の町並み景観は、住民の意識に大きく左右されるということでもあるため、市は令和4年度に飛騨古川・町並み景観研究会を立ち上げ、新潟大学都市計画研究室と連携しながら定期的な勉強会、啓発活動、調査研究事業を実施しております。また、並行して令和5年度からは日本ナショナルトラストから譲渡される飛騨の匠文化館の今後の運営について、専門家や有識者、市民の皆様と町並みの価値を伝える拠点としてどうあるべきかという点について、様々な検討を行っているところです。このように飛騨古川の町並みは、住民を主体とした維持・保全が大きな意味と価値を持ち、結果的に誘客につながると考えているため、引き続きこれらの取り組みを進めてまいります。なお、議員ご指摘の新たにぎわい創出などの取り組みに関しましては、引き続きまちの元気応援事業により、市民の皆様の前向きな取り組みに対し積極的な支援を行ってまいります。

〔商工観光部長 畠上あづさ 着席〕

○12番（野村勝憲）

飛騨古川まつり会館ですけども、昨年からだと思いますけども、シアターを利用してイベントをやられていますよね。これは昨年は何回やられて、観客数はどのくらいだったんですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畠上あづさ）

4Kシアターの活用につきましては、昨年ワンコインの映画上映会を6回、それからドローンコンテストの審査会が1回、それから古川中学校のマイ・プロジェクト発表会を1回行っておりまして、延べ425の方にご利用いただいております。

○12番（野村勝憲）

「雑魚どもよ、大志を抱け！」の映画ですね。これは昨年の3月から東映系で上映されていましたね。終わったかどうか分かりませんけども、全国で展開されたと思いますけども、この1年間で観客動員数はどれだけで、この映画の全体の制作費はどのくらいだったんですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畠上あづさ）

全体の観客動員数、制作総額については把握をしておりませんが、古川町、神岡町でロケをしたときに、市内に落としていた金額は把握しておりますが、それでもよろしいでしょうか。

（野村議員「それはいらない。」と呼ぶ）

○12番（野村勝憲）

どちらにしても2,500万円ぐらい、ふるさと納税とはいえそれは都市部のお金なので、ちゃんと結果を分析して次の手を打たないと、ただ終わってよかったですよ。

それから私が一番懸念するのは、やはり店がなくなっていくんですね。最近知ったんですけど、先週の土曜日も殿町の飲食店が閉店されたということです。それと最近の情報では古川町でもう1店やめようという話が出てきているんですね。例えばゲストハウスが古川町で結構できています。ゲストハウスでは食事が提供されません。しかし紹介する店がないということで、実際ゲストハウスを経営されている、あるいは従業員の方も含めてですけども、やはりもう少し食べるところを何とか市としてもバックアップしてもらえないかということをお願いされているのですが、その辺についてはどのような考え方でしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畠上あづさ）

飲食店が足りないというところについては私どもも共感しておるところはありますが、1つ申し上げますと、昨日の小笠原議員の答弁でも申し上げましたが、市内のゲストハウスは積極的に市内の既存飲食店をお客様にご紹介いただいてご利用いただいておりますので、必ずしも食べに行くところがなく困っているという状態ではないと考えております。ただ、飲食店がもっとほしいというところはそのとおりでございますので、市のほうでも空き家を利用した飲食店の開業に対する何か支援策ができないかとか、そのところを部内でも検討しておりますので、そういう動きには積極的に支援をしてまいりたいと考えております。

○12番（野村勝憲）

先週テレビを見ていたら、高山市で忍者体験カフェ高山というものができているらしいですね。非常に人気で外国人がショッちゅう来ていると。やはり高山市の場合は店を閉じても、新しいそういう視点から店ができるんですよね。このところが飛騨市との違いなんですよ。こういったところをちょっと研究して、新たな視点でそういうお店もできないか。例えば人力車の人が帰られたので残念なんですけども、あれも非常に飛騨市の町並み、特に古川の町並みにマッチングするわけですよ。ああいったものはやはり情緒を醸し出してくれると同時に、リピーターにつながるんです。その辺のことをもう一工夫も二工夫もできないかなと思うんですが、その辺はどうで

しょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畠上あづさ）

今ほどの答弁でも申し上げましたとおり、飛騨市へおいでいただく観光客の方たちは、上っ面のものに引き寄せられておいでになるのではなく、市民の皆さんとの気持ちとか、生活感であったりとか、そういった内面からじみ出るものに共感をされたりしているところで魅力を感じていただいていると思っております。ですので単純に外国人の方が好まれるという観点でしたら、高山市にできた忍者体験カフェ高山だとか、そういう簡単な日本の要素のものに惹かれておいでになる方もあるかもしれません、そういったものは今の飛騨市には見合うものではないと私は考えておりますので、先ほど申し上げた答弁のとおり、市民の皆さんとのまちづくりの取り組みがしっかりと外国の方にも伝わるような取り組みができるように、それを目指してまいりたいと考えております。

○12番（野村勝憲）

例え話で言ったので、あれを真似するということじゃないんですよ。ここの地域に合った形で、やはりもう少し研究してやらなくてはいけないのです。

それではお聞きしますけども、テレビ取材などをほとんど受けられない、非常に大変だということ聞きましたけども、ここじゃないですよ。白川村さんです。今年は約半年終わるわけですが、白川村は入り込み客数がすごい勢いで伸びています。恐らく今年は過去に一番最高だった年間215万人を超えるだろうという情報を得ているんです。飛騨市も先ほど言いましたように新日本紀行、さらにはさくらで随分と古川町はお客様が来ていらっしゃいます。1年間の半分が終わったわけですが、今年の見通しはどうのぐらい立てていらっしゃるんですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畠上あづさ）

今年も順調にお客様には来ていただいておりますので、目標としましてはコロナ禍前の120万人に届くといいなということを思っております。

○12番（野村勝憲）

ちょっと聞きづらかったんですけど、120万人は突破するということですね。そういう理解でよろしいですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畠上あづさ）

このまま天候にも恵まれ、特段大きな天変地異等がなければ120万人にいけるのではないかと考えております。

○12番（野村勝憲）

私はいつも思うんですけど、稼ぐ観光といったら宿泊客数を増やさないといけないんですね。高山市は御存じのようにホテルが次々とできて、結果、できたことによって固定資産税が増えて

きたんですね。ですから市民税がアップしているという情報を聞いています。残念ながら飛騨市の場合は、駅前通りの料理割烹旅館が去年閉館されたんですけども、この割烹旅館を利用して新しい経営者がやるんだというような声は出でないですか。ほかの人があれを買ったという話もちらちらと聞いているんですけど、その辺は市はどのように把握されているんですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畠上あづさ）

駅前の割烹旅館につきましては、買われた方が事業承継をされるのではないか伺っております。別の用途に使われると聞いております。

○12番（野村勝憲）

恐らく私の情報が間違いなかったら、大学関係の方が購入されたのではないかと思います。その辺はどうでしょうか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畠上あづさ）

お見込みのとおりでございます。

○12番（野村勝憲）

私の情報は間違いなかったと思います。

それでは最後の3点目、大学設立と若宮駐車場について。都竹市長は大学設立が市民の夢と語ってきましたが、ほとんどの市民はそんな夢なんか持つておらず、建設予定地の宮城町はじめ古川町内の多くの人から誘致に力を入れている大学に、「この少子化時代に本当に経営していくのだろうか。」、あるいは「共創学部ってどんな学部ですか。」とか、いろいろ疑問の声を聞きました。高岡市に住む友人、この人は実は古川町出身の方で、あちらで観光操業の事業をされている方で、私の同級生なんですけども、この方から4月16日に北日本新聞で今日見たと。資料、北日本新聞ですけども、皆さんのタブレットに入っていますね。これは一面の記事です。トップ記事で「30年以上続いた高岡法科大学は定員割れで赤字経営が続き閉学するが、古川町で計画している大学は、この少子化時代に本当にやっていけるのか。」の電話をもらい、早速5月に文部科学省私学部専門官や、明治大学、中央大学、日本大学、愛知工業大学、至学館大学、豊橋創造大学など10校の入試広報担当の方々、あるいは事務長や部長やいろいろな方と会ってきているんですけども、情報収集と意見交換をやってまいりました。この4月、新設された学部に理系の学部を新設する大学が本当に増えているようです。その筆頭は成長分野である情報系・データ系学部で、特にデータサイエンス学部の新設が相次ぎ、例えば一橋大学、千葉大学、滋賀大学は総合大学の強みを生かし積極的です。計画のC o I Uは高岡法科大学と同じ単科大学で、定員数もほぼ同じ。資料の中日新聞の記事ですけども、「地方の私大 学生集め苦慮」と。たぶん皆さんも読まれたと思います。タブレットにも入っています。このように本当に地方の私立大学は学生集めに苦慮され、これまで私が訪問してきた長野県、岐阜県、あるいは富山県、愛知県の私立大学の単科大学も定員割れの大学が多く、本当にこの先が心配です。そこで4点問います。

C o I Uが開学した場合の経済効果は。新聞報道によれば、4年制大学の設立基金の井上博成

代表理事が定員120名の共創学部を2026年4月に開学すると発表。飛騨市は全力で支援するとたびたび述べ、当然、市への経済効果はしっかり試算済みのはずです。開学の2026年度から10年間の経済効果の数値目標を具体的に示してください。

2つ目、将来C o I Uの公立化の可能性は。現在地方の私立大学は定員割れで赤字経営が続き公立化の動きが出ており、千葉県のある市がある件で有名になった学校法人経営の私立大学を誘致し、飛騨市と同様に市からの支援を受け開学したが、2016年度をピークに学生が減少し、経営難に陥り、市に学校法人から公立化のお願いをしているようです。市と学校法人との間で今大きな問題となっているようです。都竹市長は大学が開学していないのに、早々に大学設立基金の評議員に就き、庁舎内に大学支援室、さらにふるさと納税で設立資金まで準備し、大学誘致に全面支援の立場。万が一、大学が少子化などの影響で閉学となったとき、公立化に協力するのでしょうか。こういうことも考えていいかないといけないですよ。

3つ目、C o I U設立準備の12億円について。大学設立基金は建設事業費を20億円から70億円に修正し、2年以上が経過。また、市はホームページで64億円の寄附金募集を呼びかけたのに開学費は約12億円。当初の20億円にもいかないんですね。開学費の内訳を、市のふるさと納税などの支援金を含め、井上理事長側の自己資金や企業等からの寄附金など具体的に示してください。

最後に、市の若宮駐車場は現状のままでいいと思います。令和4年、古川駅東側の市の若宮駐車場を利用し、共創拠点を商業施設や学生寮、研究支援施設、温浴施設、全天候型遊び場などの建設計画を発表。しかし、計画の温泉と子供の遊び場だけだったら現在の東洋の工場敷地で十分。大学校舎建設は、私は最初の宮城町でやるべきと思います。もしそれが叶わなかったら農免道路北側にしたほうが、これは民地ですから、民民と言っているわけですから、民地でやったほうが学生や温泉利用者の駐車場も確保しやすい。まだ協定書を結んでないわけですから若宮駐車場は交流センターや総合会館、あるいは駅の近く、それと一番気をつけなければいけないのは、信号があつて農免道路を渡るのに本当に危険。この前も80歳以上の年齢の方が信号で子供を死亡させたという、よくテレビで出ていましたけど、そういうことが起こる可能性があるので、市民の安心安全のために現状のままで、これは私だけではありません。多くの人の声を聞いていますが、いかがですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

〔企画部長 森田雄一郎 登壇〕

□企画部長（森田雄一郎）

大学設立と若宮駐車場についてのご質問のうち、関連がありますので私からは1点目から3点目についてまとめてお答えをいたします。まず1点目、大学開学による経済効果についてですが、市の事業ではないため、その必要がないことから試算は行っておりません。

次に2点目、将来の大学公立化の可能性につきましては、こうした考えは全く持ち合わせておりませんし、議論もしておりません。

最後に3点目、開学に係る費用につきましては、これまで繰り返し申し上げてきましたけれども、市の事業ではないためお答えする立場にはございません。

〔企画部長 森田雄一郎 着席〕

◎議長（井端浩二）

続いて答弁を求めます。

〔商工観光部長 畠上あづさ 登壇〕

□商工観光部長（畠上あづさ）

私からは、4点目の若宮駐車場についてお答えいたします。開発事業者である飛騨古川駅東開発株式会社に確認したところ、現時点では計画されている商業施設は物販テナント、飲食テナント、温浴施設、交流施設で、その他の施設として全天候型子供の遊び場、屋外庭園、居住施設等を建設予定であると伺っております。当初の計画と特段大きな変更がないものと理解しております。市にとっては、機能的価値及び財産的価値が若宮駐車場と同等またはそれ以上の機能を有する駐車場が整備されることが交換の条件でありますので、現在進められている工事が終了し、条件を満たすことが確認できれば予定どおり交換の手続きを進めていきたいと考えています。

〔商工観光部長 畠上あづさ 着席〕

○12番（野村勝憲）

ふるさと納税と企業版ふるさと納税で、市はどれだけ集めたんですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

2つ合計いたしまして、現在時点では2億5,000万円程度でございます。

○12番（野村勝憲）

2億5,000万円ということは、12億円の中に入っているわけですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

そのとおりでございます。

○12番（野村勝憲）

先ほど千葉県のお話をしましたけど、あれは加計学園が経営している学校法人なんです。調べてないと思いますが、千葉科学大学です。こちらと一緒に、あちらは加計学園へお願いに行って企業誘致の条件でやったんです。最初にちゃんとマーケティング調査をして、経済効果はどのくらい出るだろうということでやつたら3分の1しかなかったという状況なんです。さらにびっくりしたのは、千葉科学大学は1学部だけではなく3学部持っています。大学院も持っています。昨年度は定員490名のところを46%で半分もいってないんです。これでもうギブアップしたと。それで市に何とかお願いしたいということなんです。市はやっぱり誘致した責任ある。飛騨市もその立場です。あなたは民民なんて言っているけど、飛騨市は積極的に受け入れて、宮城町の土地も紹介したのは市でしょう。さらにもっと言うと、企業立地と同じ条件だと言っていました。たしかそのときに「10年間固定資産税を免除する。」（議会だより（第69号）は免除になっているが、答弁R3.3.9は助成と発言）と言っています。それは今も変わりないですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工觀光部長（畠上あづさ）

企業立地条例の対象の条件がいろいろありますので、それに対応できるところについては助成をすることになります。（野村議員「免除するんですか。前に答弁しているじゃないですか。」と呼ぶ）

○12番 (野村勝憲)

10年間固定資産税は免除するんですか。過去には答弁していますよ。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工觀光部長（畠上あづさ）

免除ではなく助成をいたします。

○12番 (野村勝憲)

議会だよりも含めてよく確認してください。免除をすると言っているんですよ。助成すると言っていますけど、助成する必要はないです。あなた方もっと勉強してくださいよ。学校法人、私立であれ、国立であれ、公立であれ、固定資産税を納める必要ないですよ。そういうことを大学設置支援室は勉強していないんですか。

◎議長（井端浩二）

答弁を求めます。

□商工觀光部長（畠上あづさ）

条例の一般論として申し上げたところです。

○12番 (野村勝憲)

条例の一般論って、そんな答弁では駄目ですよ。私は国も、大学も、自治体も全部調べて「納めなくていい。」と言っていました。そういう答弁ばかり。詭弁答弁ばかりで大丈夫ですか。それでは、全天候型の子供の遊び場、これは有料ですか、無料ですか。

□商工観光部長（畠上あづさ）

市では答える立場にございません。

○12番 (野村勝憲)

これは大変な問題ですよ。若宮駐車場は市民のものですよ。そこに建てられるわけでしょう。「答える立場にありません。」なんて、そんな失礼なことはない。市民に迷惑をかけているんですよ。これは恐らく有料です。どこが運営するかも知らないんですか。

□商工觀光部長（畠上あづさ）

それについても答える立場にございません。

○12番 (野村勝憲)

私がから言います。これは施工は株式会社井上工務店でしょう。運営は
それを各務原市でやっているんでしょう。3歳以上600円取って。その飛騨市バージョンをやる
んでしょう。いろいろな形で。これで本
当に大丈夫ですか。都竹市長、私は非常に疑問に思います。若宮駐車場は市民の財産、駐車場と
しては一等地ですよ。それが農免道路の向こうに行くわけでしょう。だから最初の宮城町でやつ

てもらうように交渉してくださいよ。

◎議長（井端浩二）

野村議員に申し上げます。通告から大分外れていますので、通告に従ってやってください。（野村議員「通告したよ。よく読んで。若宮駐車場のことを言っているでしょう。独断でできないのか。」と呼ぶ）今の駐車場の問題については、建設するところは市とは関係ないので答弁する必要はないと思います。（野村議員「何が関係ないの。」と呼ぶ）市の駐車場ですけど、市が経営するわけではないので。（野村議員「渡さなくともいいものを渡すんでしょう。真剣にやらないと大変なことになりますよ。」と呼ぶ）「予定どおり交換の手続きを進めていきたいと考えている。」と市が答弁していますので。

○12番 (野村勝憲)

本当に市民の立場でやらないと、[REDACTED]これ
は後になって大変なことになりますよ。

私は25校以上の大学を回っています。いろいろな人に聞いたら、みんな心配されています。ふるさと納税だとかいろいろな形で協力して、まさに誘致したというふうに捉えられている。それが結果、先ほどの高岡法科大学のようになった場合、どう市として責任を取るかという議論にもなってきます。ですから、ぜひお願いしたいのは、市民にまずアンケートを取ってください。宮城町でいいのか、若宮町でいいのかを含めて。その辺、都竹市長いかがですか。

△市長（都竹淳也）

ずっと今まで何度もこの話をしていますし、議事録を読んでいただければと思うんですけど、認可するのは文部科学省ですので、今ここで我々がどうだこうだと言う必要は全くない。それからお話を伺っていると誘致のところも認識が正確ではないし、市がやるのか、民間がやるのかもはつきり言って混濁した状態でお話をされている。ここをきれいに整理しないと何ともならない。それから土地も交換ですから。同等以上の機能を果たせれば、それで交換しましょうということなんです。中でどう使われるかというのは概括的な話はあるけども、ここで聞かれてもしようがないです。そもそも議場の場で民間事業者のこと批判したり、あり得ないような言い方で言うというのは、これは議員として議場の発言のモラルとしてどうなのかということも思います。先ほどの映画の話も全てそうなんですが、市がやっていることと民間がやっていることを完全に混濁されている。ここはきちんと峻別しないと議論なりませんよ。しかもそれは延々と繰り返されてきているんですよ。何年も。今初めてじゃないんです。分かっていらっしゃっておっしゃるなら、これは問題です。（野村議員「市から説明を受けている。」と呼ぶ）聞いても分かっていらっしゃらないなら、それも問題です。市は、そこは言う立場ではないとこれだけ申し上げているし——。（野村議員、不規則発言あり）

◎議長（井端浩二）

野村議員、許可してないです。お黙りください。

△市長（都竹淳也）

ということですから、やっぱりそこはしっかりと認識していただく必要があると思いますし、今後もそれを踏まえて質問していただく必要があると思います。今までの説明もほとんど聞いていらっしゃらないし、そこを踏まえてぜひご質問いただきたいと思います。

○12番（野村勝憲）

どちらにしても20億円になったり、70億円になったり、今度は12億円。それも向こうの資金は10億円以下でしょう。ころころころころと振り回されているじゃないですか。我々はこの問題を飛騨市から全員協議会で聞いたんですよ。それを今になつたらおかしい状況になつて振り回されている。

以上で終わります。

〔12番 野村勝憲 着席〕